

未来会議WG4:ゲノムのある診察室研究活動について

未来会議WG4:より高い治療効果を得るための全国規模のゲノム医療イノベーション

現状

- より細やかな層別化によって、適切な治療方法を選択し、副作用をおさえたり、治療期間を短くするといった手段をとれていない
- ゲノム情報を活用することにより診断できる難病の早期発見、早期治療を実現できていない
- 医療データにゲノム情報を組み合わせると治験の成功率が、2～8倍に上昇することが解明されたが、わが国では実現が遅れている

実現したい未来像

- ひとりひとりに適合した治療、予防医療の提供

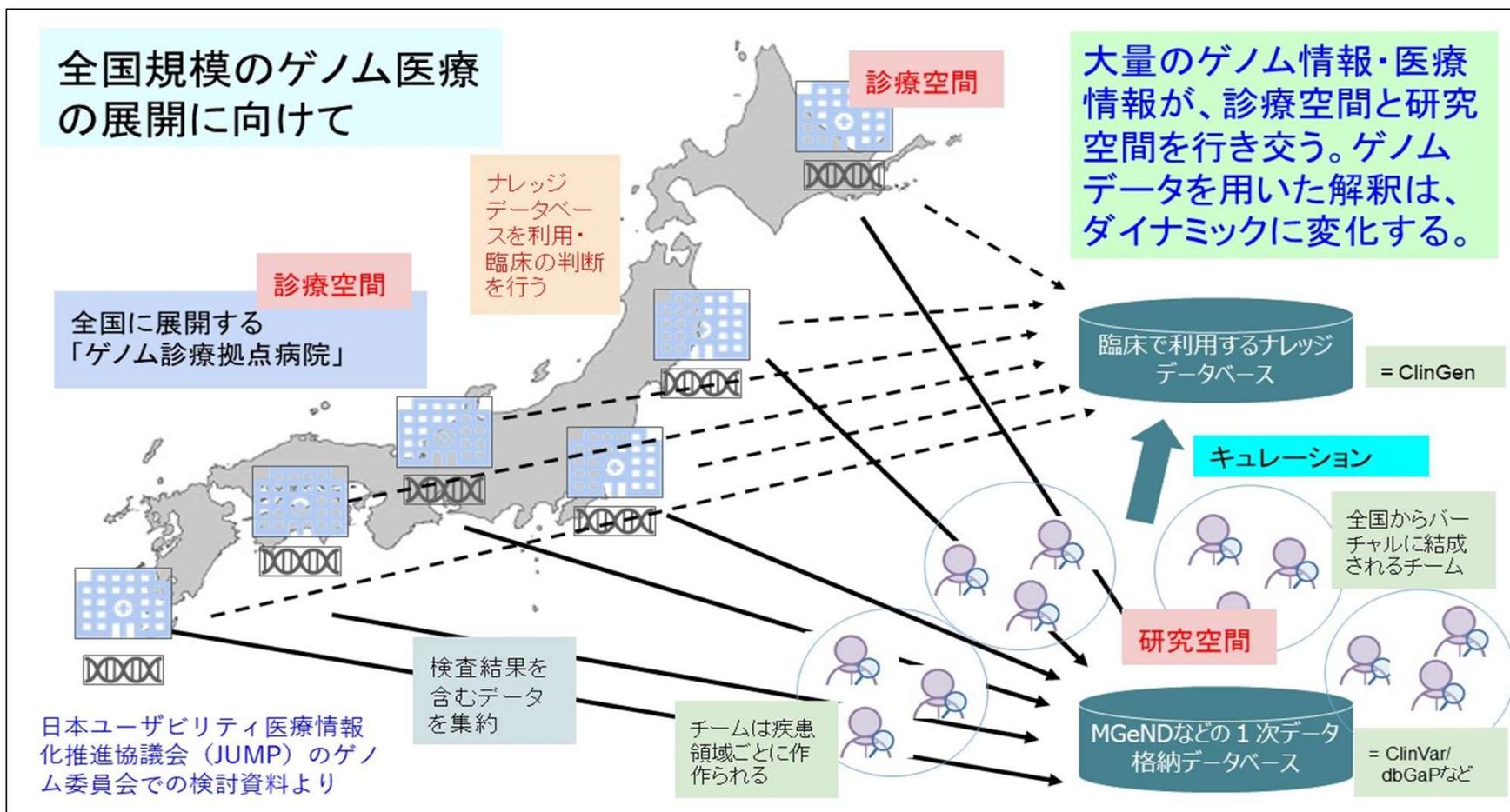
全国規模ゲノム医療の展開に向けたイメージは次頁に示す

解くべき課題

- あるべき姿を描き、実証、研究活動の早期化
 1. 未来社会を実現するための健康医療データの1次利用、2次利用を進める全体的な法制度の仕組みと基盤の構築
 2. 国家プロジェクト等の既存のデータベースを有効活用するための仕組みの具体化（データの追加、集約）
 3. 臨床現場から参照可能なナレッジベースの構築と実用化に向けたロードマップの作成
 4. ゲノムデータの利活用のメリットとデメリットなどへの国民理解の醸成

病気は、遺伝的要因と環境要因が合わさって生じる。従って、ゲノム情報（遺伝性の要因）を考慮しない医療はもうあり得ない。

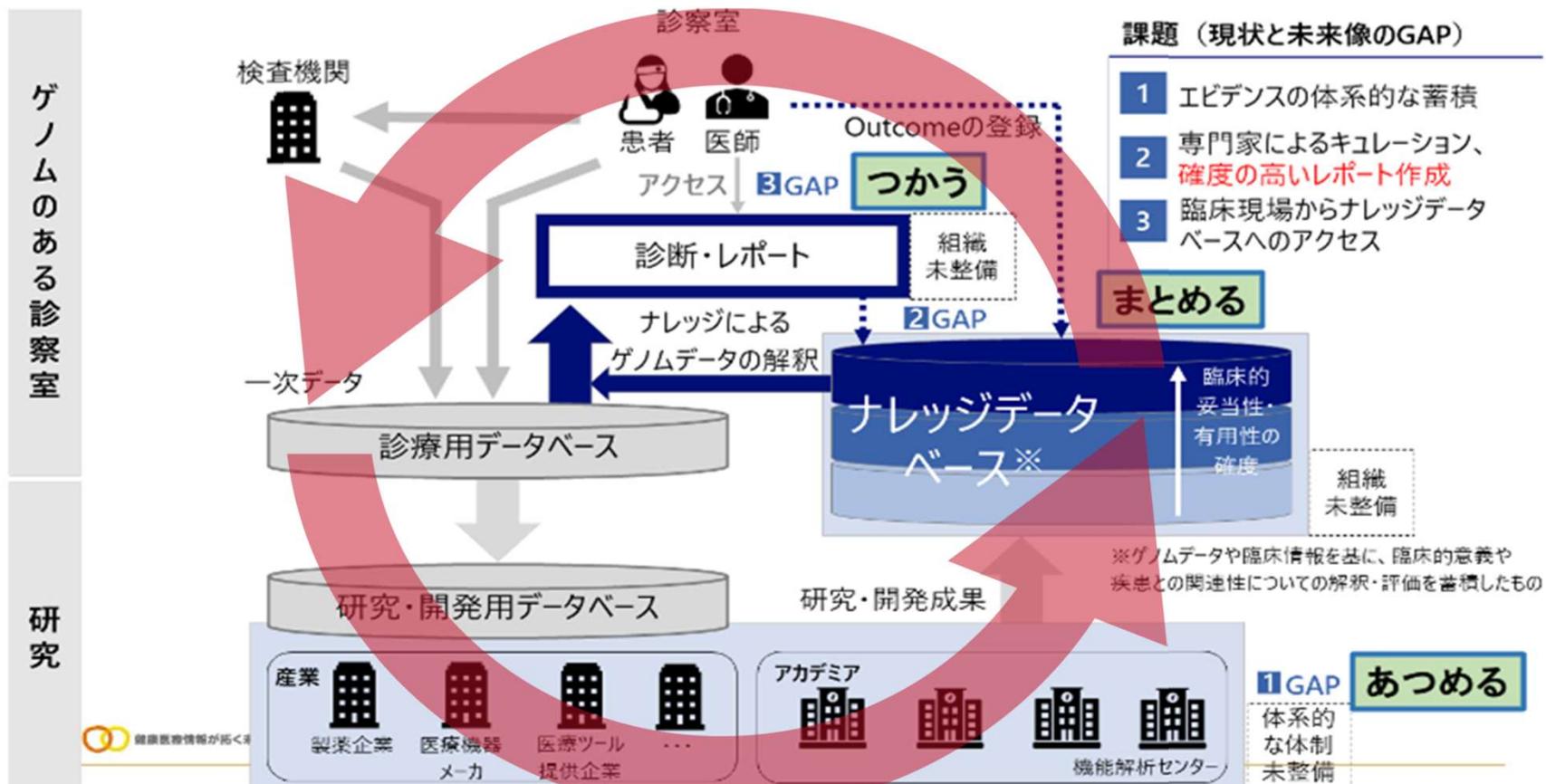
ポイントは、「**（患者の）緻密な層別化**」



- ゲノム配列の変異の意味を調べる機能解析
- 変異に対応した薬剤の開発

日々産生される医療データに基づく知識（ナレッジ）が、日々の診療に還元され、医療の質の継続的な改善サイクルを生み出す医療システム

ゲノム医療のラーニングヘルスシステムの基盤サイクル



ラーニングヘルスシステムの4要素

1. 「患者、医療従事者、研究者等が協力しながら健康医療データを産生し、利活用するコミュニティ」の形成の支援
2. 大規模な健康医療データの収集
3. 研究で得られた新しい知見・知識を活用した、患者ケアの質の向上
4. 日常の医療現場で行われる研究

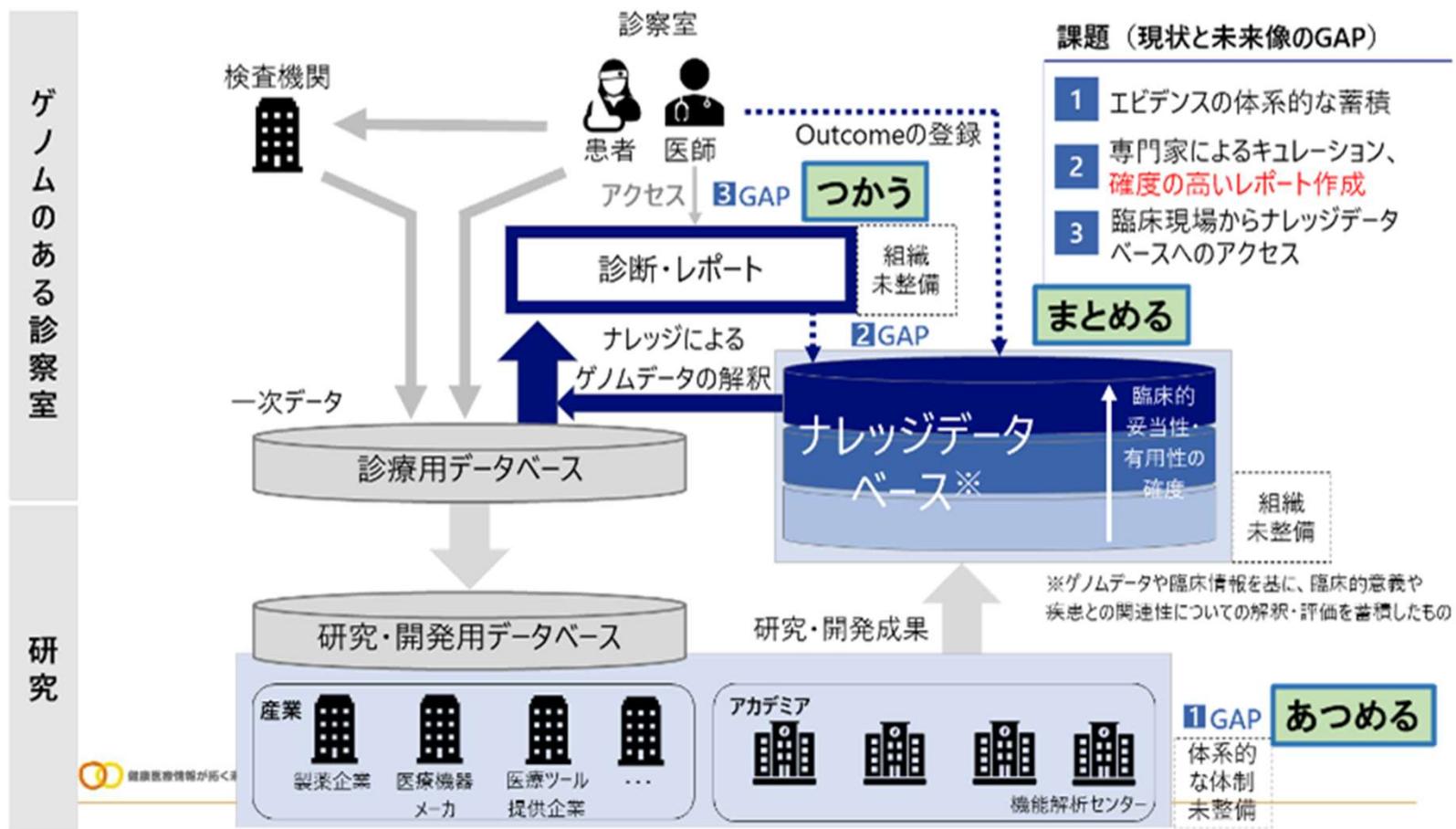
まとめ

- ◆ 「ゲノムのある診察室」を実現するうえで、ゲノム情報をあつめて・まとめて・つかうことを実現するナレッジベース整備が必要である。
- ◆ 実現にあたっては、データベースの整備や連携、技術的な専門家の育成・配置などを含む、ゲノム医科学に関する専門的な内容から、病院などを含む医療現場における体制の整備や強化、そして法律や規制面での対応の必要性など、広く分野横断的な内容が含まれる。
- ◆ このような全体像や未来像を見据えたグランドデザインを欠いたまま、個別の活動が進むことで、本来もたらされるはずのゲノム医療による利益が十分に国民に届かない事態となることは避けたい。
- ◆ わが国において個々の活動に取り組むさまざまな人々が手を組むことで「ゲノムのある診察室」を実現し、精密な個別化医療が日本全体に広がるための議論につながることを期待したい。
- ◆ 「ゲノム医療のある診察室」を実現するために、ナレッジを形成するさまざまな活動の共通基盤としてのナレッジベースの形成の実証実験に取り組んではどうか。

「ゲノムのある診察室」を実現するために
ゲノム検査結果の適切な解釈に不可欠なナレッジベース
の整備の重要性

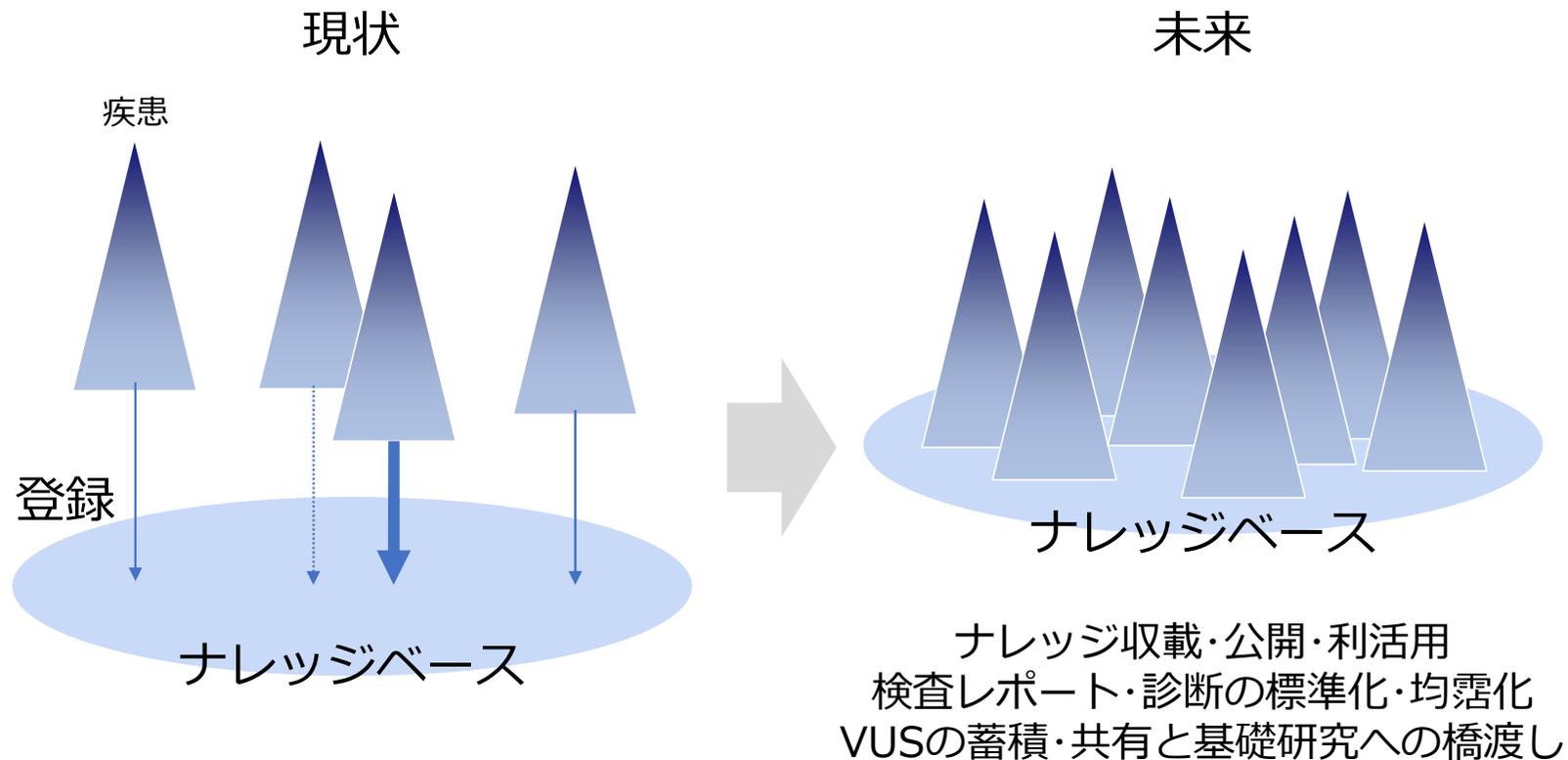
健康医療情報が拓く未来会議
WG4「ゲノムのある診察室」研究
実証実験TF

ゲノム検査結果の適切な解釈に不可欠なナレッジベースの整備



「ゲノムのある診察室」を実現するために

ゲノム医療のナレッジベースの整備の実証実験



臨床ゲノム情報統合データベース整備事業の状況確認
パイロットプロジェクトの立ち上げへ